



### 特集号: 東ティモール・ユース・ピース・キャンプ(その1)

7月31日から8月9日、アジア太平洋YMCA同盟が主催し、第2回YMCA東ティモール・ユース・ピースキャンプが東ティモールのディリで行われました。日本から5人&一匹(もちろん、ポーポキのこと)、韓国から9人、香港から6人、東ティモールから約30人のユースの参加があり、レクリエーションや歌、クラフトなど子どもたちへのピース・スクール、植樹などのコミュニティ・ワーク、地元青年とのサッカー交流、そしてキャンプを通してロニーを中心に日本のメンバーがさまざまな「ポーポキの平和のワークショップ」を行いました。

今回の「ポーポキ通信」は、日本から参加した横山由利亜さん、湯前梨花さん、木村勇基さん、矢野恵美さんに感想文と写真をお願いして、それらを中心に編集してみました。とても密度の濃い10日間でしたが、今回はポーポキらしく、説明よりは感じたことを中心にします。

もう少しすると、韓国、香港、東ティモールの参加者から原稿が届くと思います。届いたら「東ティモール・ユース・ピース・キャンプ特集その2」をお送りします。楽しみにしていてください。



(全体かある程度わかる矢野さんの文章からスタートしましょう。)

### テラ・サンタのこどもたちとポーポキ

国際基督教大学 YMCA 矢野恵美

8月初頭、東ティモールディリ県テラ・サンタで、International YMCA Youth Peace Campが8日間に渡って行われた。プログラム前半に行われた「Peace School」、またその後の日々を通して、ポーポキは地元のこどもたちと kolega diak!(good friend!)になったと思う。

Peace Schoolでは、ユースとこどもがそれぞれダンス、歌、芸術、スポーツを一緒に楽しんだ。特に芸術のグループではポーポキを描いたりポーポキ紙で飛行機をつくったり、ポーポキの出番が多かった。その他のグループでも各教室にポーポキの絵が飾られた。プログラム最後から2日目、コミュニティセンターの壁にポーポキの絵を描くとき、こどもたちも

参加してくれた。同日、最後にポーポキソング、「Ba Ne' ebe Popoki(ポーポキ、どこへ行くの?)」を歌うときも子どもたちはひときわ声を張り上げていた。

子どもたちにとってこのキャンプは直接「平和」について考える機会ではなかった。しかし、「みんながポーポキについて話している」「みんなポーポキのことが大好き」、そんなことは子どもたちに伝わっていたのではないかと思う。

ほんの少しの交流の中では、子どもたちが今どんな状況でどんな想いで暮らしているのか、その子どもたちにこのキャンプがどんな意味を持つのか、具体的にはわからなかった。しかし4カ国の子ども、ユース、大人がポーポキを中心に楽しくすごした、そのことが、私にとってそうであるように、子どもたちにとっても、彼らの「平和」をつくっていく何らかの原動力になってくれればと願う。



ポーポキが印刷されている紙で飛行機を折る



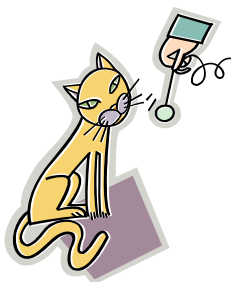
ポーポキ塗り絵をする少年



センターの壁のポーポキの前で



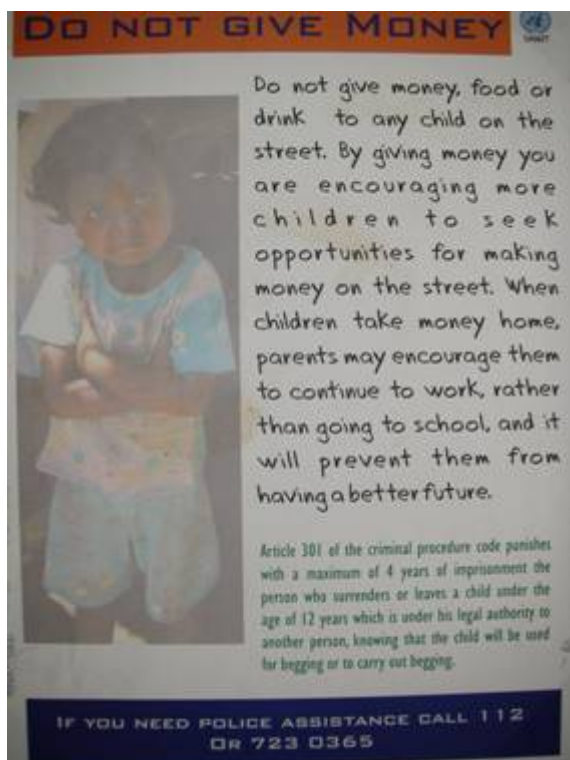
イノ(9歳)が描いたポーポキ



(木村さんも「子ども」をテーマにしました。)

## 東ティモールの子どもたちと出会って

滋賀大学教育学部・美術教育コース  
木村勇基



東ティモール国に入国した日、空港で目についたのがこの張り紙であった。「お金を与えてはいけない」この張り紙の内容に対して、初めは、入国したてということもあり、空港を出るまでは、人事のように考え、その張り紙の重要性にはまったく気づかなかった。

空港の出口には子どもから大人まで、大勢の人が来ていた。私が空港を出る前に、同行していた日本人のディレクターから、事前に「迎えが来ている」と話を聞いていたので、空港のゲートの前で手をふってくれている子どもたちが、その迎えなのだと思った。

そして、空港のゲートを出た瞬間、その子どもたちは駆け寄ってきて、笑顔で挨拶をしてく

れ、荷物を持とうとしてくれた。私はとても親切な子どもたちだと思ったが、現地のスタッフから、「子どもたちにかまうな」というふうに言われた。その時は、こんなに親切にしてくれる子どもたちに、かまうなということは、どういうことなのか全くわからなかった。

しかし、手配していた車に着き、荷物に乗せ始めた瞬間、子どもたちは急に、「物をくれ！」「金をくれ！」と手の平を突き出してきた。私はそのとき、張り紙の現実に直面した。その後、現地スタッフに言われるがままに、トラックの荷台へと飛びのった。荷台へと乗ったあとも、子どもたちは手を突き出し、荷台に乗ろうとする子どももいた。

そして、トラックが走りだすと、子どもたちは走って車を追いかけてきた。私はどう対応していいかわからず、無言のまま、必死に追いかけてくる子どもから目をそらすことしかできなかった。すると、一人の子どもから「Fuck you！」という声があがった。私は思わずその子を見てしまった。彼の顔は真剣な顔つきであった。



この写真は、宿泊する学校に着いた日に、少年に青いバンドをプレゼントしたときに撮影したものだ。

私は、空港での子どもたちの出会いで、少し子どもに不信感をもっていた。子どもが怖かった。写真に写っているこの少年も、初めは笑顔で挨拶をしてくれた。そして、現地の言葉で何かをいいながら、手をつないでくれた。私は、学校内にいる子どもなので、空港の子どもたちのようにはならないだろうと思って少し安心した。

しかし、次の瞬間、私が腕にしていた青いバンドを見て、それを指さして、自分にくれるように仕草を始めた。私は、啞然としてしまった。彼の誘いを断ったら、また空港の時の少年のような態度をされるのだろうか、とても不安になった。

青いバンドをあげることについては、まったく抵抗はなかったが、これを渡して、本当によいのだろうか、とても疑問に思った。

結局、彼の強い押しに負けて、青いバンドをあげた。彼はとても喜んでくれて、私も少しほっとした。

次の日、彼に出会うと、バンドをくれてありがとうと言ってくれたが、その日から帰る日まで、毎日、彼は私が身につけているものを指さしてせがむようになった。私は、空港にあった張り紙の願いの意味ようやく理解できた。

だれでも、物をもっていれば、人にあげることは簡単である。しかし、ただものをあげるだけで、それは、本当に相手のためになるのだろうか。先進国が、発展途上国に物資を送ることと同じである。自分たちで解決の糸口を見つけないままに、物だけがながれてくれば、それに頼ったままで、結局は中は変わらず、永遠に国は発展していかない。

私は、その日から、彼に出会うたび、青いバンドをあげたことについて悩んだ。



8月5日、聖日礼拝で、地元ユースが聖書の一部份のシーンを演技するというプログラムが行われた。それは近くの山で行われたのだが、いつのまにか、よく学校へ来ていた子どもたちも一緒に登っていた。

プログラムも終盤に差し掛かり、ちょうど山の頂上付近まできたころ、この写真のような、町が見渡せるとても見晴らしのよいところがあった。

それまでは、地元の青年がする演技を追っていた子どもたちであったが、一人の子どもが、その景色に気づいて感動の声を漏らしながらかけよっていき、他の子どもも、その子と同じように駆け出していった。

こどもたちは、何を言っているかわからなかったが、その景色をみながら、指を刺したり手を広げたりして、少し興奮しているようであった。彼らはこの景色から、いったい何を感じ、発見し、考え、話したのだろうか。東ティモールの広さ、海の綺麗さ、明日への希望。いずれにせよ、この発見はこの子たちにとってなんらかの影響を与えたに違いない。

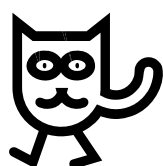


8月3日、「peace school」1日目。私は現地の子どもたちとサッカーをすることになった。まったく整備がされていないグラウンドで、彼らは裸足や、サンダルでサッカーをしようとしていた。日本ではありえない光景である。私はそれを見て、子どもたちはルー

ルを知っているのか、そもそもサッカーをしたことがあるのか、ちゃんとサッカーが成立するのか不安になった。とりあえず、子どもたちが靴をはかないのなら、私も靴を履くのを辞めて、サンダルでプレイすることにした。

するとどうだろう、子どもたちのサッカーセンス、プレイの上手いこと。だれもサッカーを教える人などいないはずなのに、どこでそれを培ったのか、とても不思議に思った。

数日後、グラウンドにぺこぺこのボールを使ってサッカーをしている子どもたちをみた。こどもたちの可能性の大きさを感じた。学びはありとあらゆる場所に存在し、それを得るかどうかは自分次第であるということに気がついた。



(湯前さんはコミュニケーションについて書いてくれました。)

東ティモールピースキャンプに参加して

神戸 YMCA 国際ボランティア

湯前梨花

このキャンプでの約 10 日間、ポーポキはワークショップ、歌、さらには紙ひこうきにと大忙し！それでも、どこにいてもポーポキは笑っていて、そんなポーポキのことを考えたり、ポーポキの絵を描いたりしている人間たちもポーポキと同じ顔で笑っていた。そして暴力について考えるときのみんなの顔は真剣で、ときどき寂しい顔。そんなときに絵の中に出てくるポーポキも寂しそうだった。中国人、韓国人、東ティモール人、日本人が言語や文化の違いを超えてポーポキと一緒に平和について考える…このことは私にとって他の 3 カ国のユースと平和についてどんな話ができるのかという楽しみでもあり、反面、言語の違いなどから不安でもあった。「平和」には明確な定義がない。話をする中で「平和をみんなが求めるから暴力が生まれるんだ」と言う東ティモールのユースもいた。個々人にとっての平和がたとえ同じ言語や文化を持ったもの同士でも異なるという実感もあった。それではみんなが平和について考える意味とは何なのだろうか。それは相手にとっての平和とは何なのかわかることなのかもしれない。これは相手にとっての暴力とは何かを知る手がかりにもなる。そして相手にとっての平和や暴力を理解しなければならないのは紛争下だけでなく、日常生活でも同じだ。東ティモールでは平和や暴力について深く考えて、学ぶことができた。同時にもっと考えるべきこと、学ぶべきことにも気づいた。自分にとっての日常の中で平和や暴

力について考えたり、学んだりすることをおろそかにしてはいけない、キャンプを終えた今、このことを実感している。東ティモールではコミュニティセンターの壁にたくさんのポーポキが描かれた。しかもすべて笑顔、笑顔、笑顔！言語や文化の違いをもろともせずポーポキはたくさんのことをたくさんの人に教えてくれた。ポーポキ、ありがとう。

【コミュニティセンターの壁に描かれたたくさんのポーポキ】



「無限の可能性に開かれたポーポキ」

日本 YMCA 同盟  
横山由利亜

異なる国のユースが「平和について、さあ語ろう！」というとき、ややもすると自分をとび越えて国の状況説明（プレゼン）に終始し、「わたし」が不在となったり、議論となると、抽象的な概念、言葉(globalization, reconciliation, justice, responsibility...)が飛び交って、頭の中で翻訳しているうちにタイム・アウト、さあ発表、さあ声明となることが多く、なんとなく不満、劣等感もあった。

そこにわれらのポーポキが登場すると・・・「ポーポキとわたしの対話」がワークショップになることによって、一人ひとりの内面から「平和な状態へのイメージ“平和性”」が湧きでてきて、それぞれの身の回りのごく具体的な「非平和性“暴力性”」の気づきが、自然と引き出されてくるのである。

それは、「平和とは何か？それは暴力のない状態」というこり固まった頭が、「平和ってなに色？それは虹色、白・・・一人一人ちがうかもしれない」という無限の可能性へ開かれてゆく、解放の瞬間といってもいいかも知れない。今回のキャンプでは、そのような解放の瞬間が、とまどい、よろこび、楽しさ、友情、そして希望と勇気・・・参加した一人一人にいろんな形で訪れ、それを分かち合えたのではないかと思う。

今回のキャンプでの豊かな内容はユースの参加者が紹介してくれることを期待して、私は心にひかかっている問いかけをあげたい。「私たちは身を守るための本能的な“けもの性”を否定できないのではないか」、「ワークショップをやりながらも、どこか言葉での説明にたよってはいないか」。わたしはこれから時間をかけて応えていきたいと思う。そのときにもきっと、ポーポキはわたしを励まし、いっしょに悩み、虹色の可能性で行く道を照らしながら、そばにいてくれるだろう。いっしょに参加したロニーさん、ゆのちゃん、にいやん、えみちゃん、そしてポーポキに感謝して。



コミュニティセンターの壁に皆で描いたポーポキの一つ。木陰からそっと様子をうかがうポーポキと、ギャング・グループの名が殴り書きされた落書き。「仲間に入りたいな」の想い、平和を望む心の葛藤は共通するのかも知れない。







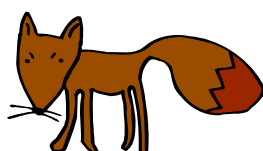
最も心にのこった場面のひとつ。「ポーポキ、平和って、なに色？」の読み聞かせを始めた「お父さん」。ワオ、ワオと目を輝かせ、その感動、おどろき、優しい気持ちが子どもたち、私にも伝わって来た。



自分たちでポーポキのワークショップ、日本のプレゼンテーション、礼拝をがんばったユースたち。



神戸 YMCA の協力で作られたポーポキTシャツ、最終日にはたくさんのメッセージが書き込まれた。



## 暴力と非暴力と平和～東ティモールで考えたこと

ロニー & ポーポキ

ポーポキは今まで、いろんな人に出会い、さまざまな評価を受けてきました。どうも、ポーポキちゃんは人間の心に響くものをもっているようです。ワークショップをするたびに驚きますが、ポーポキと出会う人々は笑顔になり、想像力を発揮します。私はこの現象を「ポーポキ・マジック」と呼んでいます。しかし、紛争地域や武力によって心を傷つけられた人々に「ポーポキ・マジック」の効果は果たして働くのでしょうか。東ティモールに行きたいと思ったのは、それを試すためです。

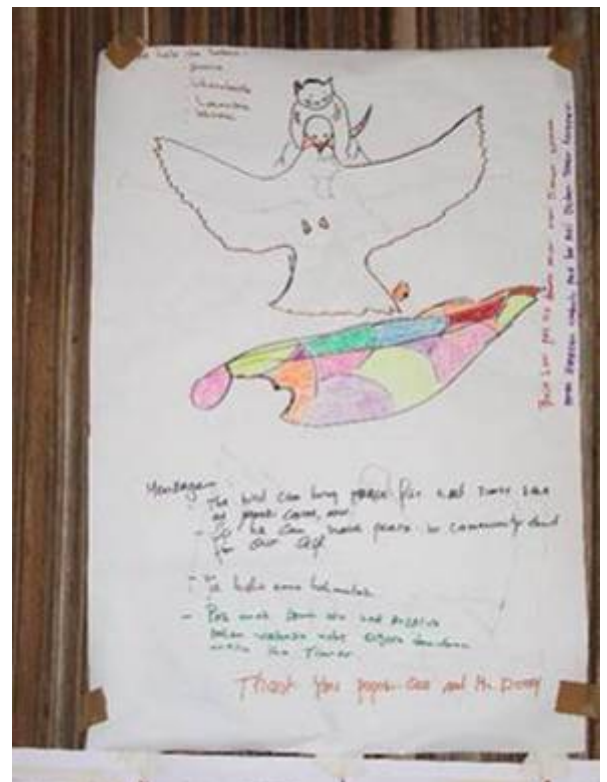
東ティモールで暴力の文化の力強さを感じたと同時に非暴力の難しさを痛感しました。非暴力を徹底するにはそれを貫く情熱、勇気や忍耐力が必要だということを再認識しました。そして、自分の非暴力へのコミットメントと、ポーポキと一緒に真の意味での positive peace をつくる決心をしてきました。

何よりも印象的だったのは、皆さんの笑顔でした。本当にありがとう！

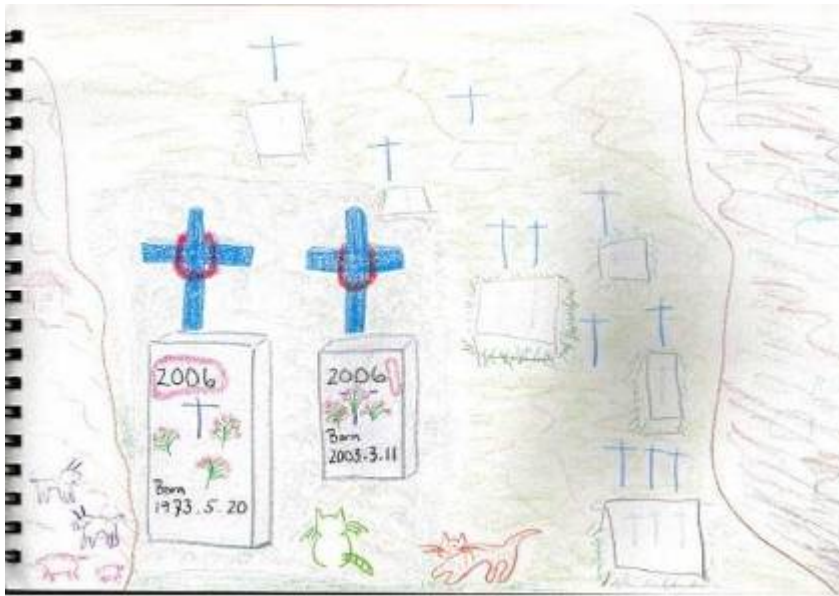


←最初のワークショップで「自分たちをとりまく暴力」を描いていただきました。泣いているポーポキが印象的でした。

次に「暴力が消え、平和になったとき」の絵を描いてもらいました。この絵はとても気に入りました。→

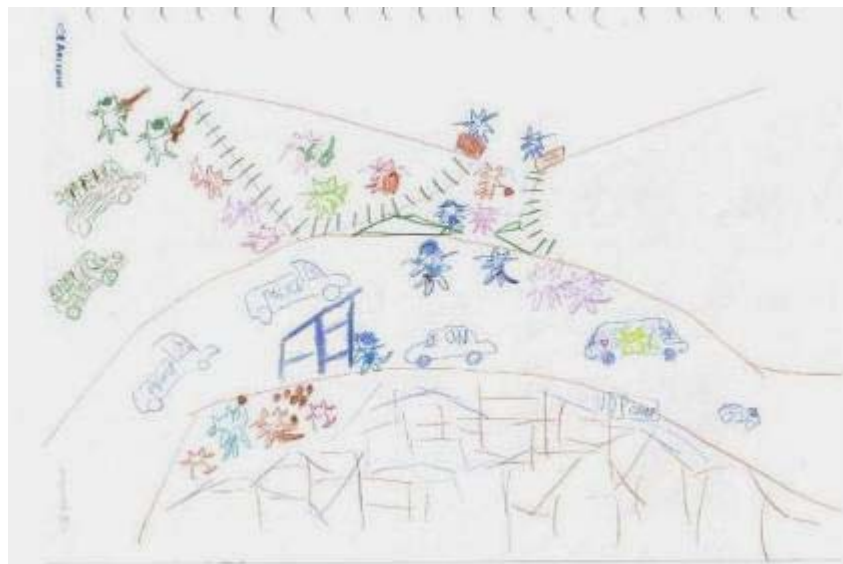


ロニーのスケッチブックより



←紛争はすべての人に影響を及ぼしている。墓地の掃除したとき、メンバーが昨年の暴動で亡くなったお祖父さんと妹さんのお墓を見させてくれました。暴動のインパクトを実感しました。

最後の日、国連警察に先導されて空港へ。これは平和？こんななか、非暴力とは？東ティモールを離れてからもずっと考えている。



## ポーポキ平和基金について

ポーポキ平和基金はこれからも活動の資金のためにご協力を呼びかけ続ける予定ですが、本の作成のための資金集めは、3月31日をもって、打ち切らせていただきました。ありがとうございました！



### さらにご協力ください！

ポーポキ・ピース・プロジェクトにご参加のみなさま(ポーポキ平和基金に一口以上を振り込んでいただいたみなさま)には、本がすでにお手元にとどいていると思います。

これからはピース・ワークショップ、ピースキャンプ、翻訳、『ポーポキのピース・ブック1』などの活動を中心に行なう予定です。ご協力、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。『ポーポキ、平和ってなに色?』についてのコメント、感想、追加注文などについては、[popokipeace@yahoo.co.jp](mailto:popokipeace@yahoo.co.jp)にお問い合わせください。

本についての問い合わせや注文はお近くの書店あるいはエピック  
(TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918)へ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace@yahoo.co.jp](mailto:popokipeace@yahoo.co.jp)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

口座名称 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一人口 1500 円。何口でも結構です。



**THANK YOU FROM POPOKI !**

[popoki.cruisejapan.com](http://popoki.cruisejapan.com)  
[popokipeace@yahoo.co.jp](mailto:popokipeace@yahoo.co.jp)